

「小規模建築物基礎設計指針」第10章 基礎の障害と修復(part-3)

前回は「沈下形状と沈下障害の関係」について説明しましたが、修復方法を検討するためには「沈下原因」も重要になってきます。今回は、不同沈下の原因について紹介いたします。

【 10.1 節 基礎の沈下と障害 】

2. 不同沈下の原因と基礎の被害 (1) 不同沈下の原因例

不同沈下の原因例を示したものが下図(図10.1.3)です。不同沈下の原因は、建物荷重の偏りや基礎の配置不良、断面不足、基礎の選定の誤りなど、建物側の原因もありますが、以下のように多くは敷地地盤の問題で、地盤条件を十分に把握せずに設計や施工は行われた場合に多く起こっています。特に近年は、造成盛土に関係するケースが不同沈下事故の8割を占め、非常に多いのが特徴です。これまで、住宅の設計者は、敷地地盤はすでにそこにあり、その地盤に合わせて基礎を選定してきましたが、それでは不同沈下事故は無くなりません。造成業者の協力を得て、造成段階から「適切な宅地であるのか？」に注意することが重要です。それには、適切な造成手法を採用し、その結果を適切に評価して「性能を確認する事」です。

また、万一不同沈下が生じた場合には、沈下原因を究明する事が最も重要で、これを怠り単に修復を行い被害が再発するケースが少なくありません。沈下や不具合の状況から、以下の原因例を参考に必要な地盤調査などを行い、不同沈下の原因を判定し、それに応じた修復方法を検討する必要があります。

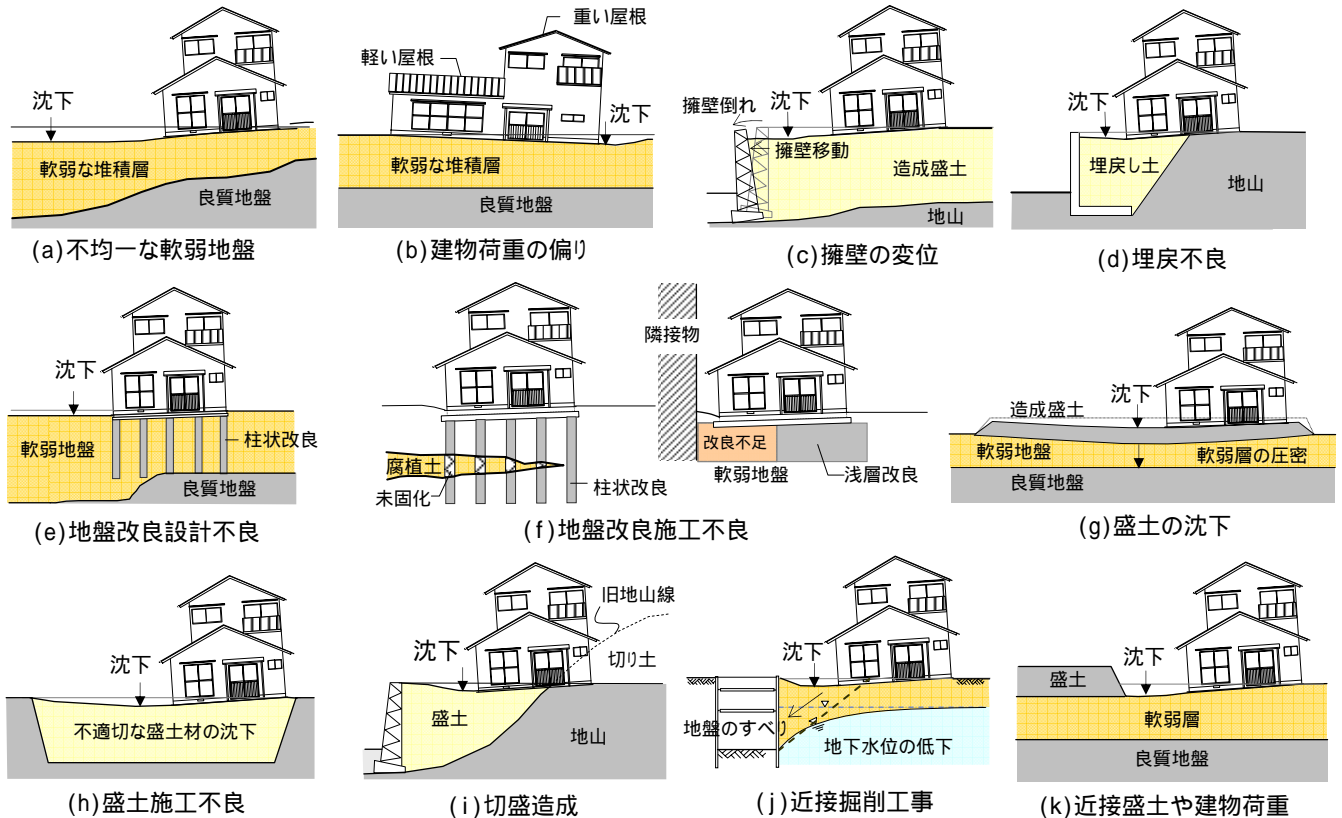


図10.1.3 不同沈下の原因例

【次号の予定】

次号では 10.2節 基礎の修復についてお届けします。